

# 4・25法大闘争へ！

全学連（斎藤郁真委員長） 書記局通信

2014年4月15日  
No.184

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

## 「労働者は国境をこえて団結しよう！」

### 4/13「外登法・入管法と民族差別を撃つ全国交流集会」での 動労千葉・田中康宏委員長のアピール！

今日の集会のすべて発言が、私は心に突き刺さるような気持ちになりました。体を震わせていました。この社会に何でこんなことが起きているのか。私はすべての発言からたった一つのことを考えました。「本気になろう」ってことです。

この社会のあり方は間違っているに決まっています。一人の人間が誇りを持って生きたいということが、何でこれほどまでに踏みにじられて、軽視・無視され、命まで奪われるんですか。社会のあり方が根本から間違っているからです。社会を支配している、日本政府のあり方が間違っているからです。私たちは労働者の団結した力を発揮して、闘わなきゃいけない。真剣になりましょう。

日本の労働運動がこれほどまでに後退し力を奪われていなかったら、こんな現実にはなっていなかった。労働者一人ひとりには、社会を変える力、国境をこえて団結していく力、国境をのりこえていく力があるにもかかわらず、労働運動がダメだということが問題です。

私は、一人ひとりの労働者の団結した力を心の底から確信しています。日本の労働者も例外ではありません。にもかかわらず、この現状です。私たちがなさなければならないことはたった一つです。社会の不正に心の底から怒って、団結した力を集めるのが労働運動じゃないんですか。この社会には非正規だとか、疎外され行き場のなくなっている労働者が国



境をこえて多く存在しています。その労働者が「ここに団結すれば希望が持てる」と思える存在が労働組合じゃないんですか。社会の民主的なあり方を政府の反動に抗して守り抜く、それが労働組合の存在でなくちゃいけないんじゃないんですか。

そうでなくなっているこの現実です。先ほどの「ヘイトスピーチ」の映像を見ても思いました。あれをやっているのは、実はこの国の政府です。安倍がやっていること、舛井とか百田とか長谷川とかあの連中がやっていることです。だから、ああいうデモが起きる。

ここを本当に変えなきゃいけない。外国人研修生の問題、牛久の入管の問題、強制収容の問題もまさにそうです。この社会の天と地がひっくり返っている。難民という存在は、特別に尊重され保護されなければいけない存在なんです。何でもまったく逆のことが起きるのか？ 日本の政府のやっていることが根本から間違っているからです。それは、外国人だけの



## 「大学改革」粉碎！ 大学の主人公は学生だ！

### 4・25法大解放総決起集会

4月25日（金）12:40～ 法政大学市ヶ谷キャンパス集合  
13:30～ 法大包围デモに出発

※終了後、文科省に申し入れ行動

呼びかけ：4・25集会実行委員会

（法政大学文化連盟 <http://08bunren.blog25.fc2.com/> [bunren08@yahoo.co.jp](mailto:bunren08@yahoo.co.jp)）





問題ではなく、すべての労働者の問題です。

この場で、あらためて固く決意しなければならないことがあります。憲法を改悪して集団的自衛権を行使すると安倍は言って、この国の深い深い危機を戦争でのりきろうとしています。毎日毎日の新聞を見れば、危機感なしに新聞を開くことができない状況です。いま起きていることを見ると、「かつてどうやって戦争に進んでしまったのか」がもう一回再現されていると思えてなりません。

私たちは、こんなことを止めるために労働運動をやってきました！ 憲法改悪と戦争を止めるために、力を結集しましょう。これは、安倍が強いからやっているんじゃないんです。深い深い危機の中で、日本政府・安倍政権もアメリカも足下から崩れ落ちようとしているからやっていると思います。

だから、われわれが力を結集させる必要があります。もう半面は、外国人労働者も含めたすべての労働者に対する激しい攻撃です。「成長戦略」と言っていることは、戦争と一体です。すべての解雇規制を撤廃して、解雇自由にする。「正規」「非正規」と今はくくられています、安倍は「正規—非正規というあり方が間違っているんだ、全部非正規にしちまえ」と言っています。そのために解雇規制を取り払う。彼は「岩盤のような規制」と言っていますが、今の世の中に「岩盤のような規制」がありますか！ この規制を撤廃するために、国家戦略特区を決めました。ここでは全部非正規化、解雇自由、労働基準法も適用しない、小中学校まで民営化。そうして、この社会の原理をすべて競争原理のるつぽに叩き込もうとしている。こうしたことが戦争政策と一つで進んでいます。

僕はこうした状況にもう我慢できない、生きることができない、未来を展望することができない。この力を一つに結集しなきゃいけない。こうした社会の状況に転換してきた、いくつかの歴史があったと思います。その最も大きな歴史が、私たちが直接当事者であった国鉄分割・民営化でした。戦後政治の総決算をする、分割・民営化をすれば日本の労働運動をつぶせる、労働運動をつぶせれば憲法を改正できる、こう言ったのは当時の中曽根首相でした。その結果、総評は解散し、社会党は解散し、社会の力関係が変わり、それが今日訴えられたような現実を生み出しました。

だから僕らはここにこだわって、この関係をもう一回ひっくり返して、われわれが闘う団結を回復する。これを全力を尽くしてやりたいと思います。もう一つの転換がありました。それは福島原発事故でした。この現実を見て、この国の政府

の言っていたことが全部ウソだったって本当に多くの人たちが気づきました。価値観が大きく揺らぎ、怒りの声が噴出しました。それは今でも続いています。多くの人がこの国の政府の言うことを信用しなくなっています。

だけど、その思いや怒りを一つのものに団結させるところに、まだ僕らの運動は至っていません。それがもしできたら、今日訴えられた、胸をかきむしられるような現実、これを変えることができると思っています。私たちはそのことを、この11年間の韓国・民主労総の同志たちとの国際連帯で学びました。われわれはかつて、アジアの侵略戦争を強行した国です。こうした歴史をのりこえて、労働者は国境をこえて団結できるということを民主労総の同志たちは教えてくれました。それがすべてを変える力を持つということも教えてくれました。

社会も支配階級もすべて揺らいでいます。だけど揺らいがないのはたった一つ、歴史的存在としての労働者、社会の主人公としての労働者、この労働者が団結したら社会を変える力、国境をこえる力、歴史をつくる力を持っています。これはどんな社会でも変わりません。この力を結集させるために本気になりましょう。闘う労働組合を甦らせることです。闘う労働組合を甦らせて、「ここに希望がある」と示す。闘う労働組合は、どんな差別も国家主義も戦争政策も正規—非正規も、すべてをのりこえる存在です。

みなさん一人ひとりに力があります。本気になれば時代は動きます。国鉄分割・民営化から始まった新自由主義、30年間にわたる労働者への全面戦争、世界からの収奪、差別と抑圧、国家主義、こうした社会のあり方の腐り果てた現実、そのすべてを変えることを求めて、私たち動労千葉は6月8日に集会を開きます。すべてのみなさんが仲間を誘って集まっていたきたい、そのことを心から訴えます。

労働者は一つです！ 団結して闘いましょう！



## 【当面する行動方針】

### ●集団的自衛権に反対する4・27集会

4月27日(日) 13時半～ 星陵会館(千代田区永田町2-16-2) ※集会後にデモ

【主催】とめよう戦争への道！ 百万人署名運動

### ●5・17～19沖縄現地闘争

辺野古新基地建設阻止！「改憲・戦争」の安倍政権打倒！ 学生自治会を甦らせよう！

### ●6・13法大処分撤回第6回裁判

6月13日(金) 16時～ 東京地裁・615号法廷にて ※30分前までに裁判所脇に集まって下さい

